



# 帰国生の学校選び A to Z

●第40回●

## 日本語での学習と現地校の学習との両立を図ることが重要

間もなく現地校の新年度が始まります。進級や進学によって現地校での学習が難しくなったり、クラブ活動の練習が厳しくなったりして、夏休み前とは学校生活が様変わりすることがあります。とくに帰国を控え、入試対策にも時間が必要な場合には、どうやって両立すればよいのか頭を悩ませることでしょう。現地校の成績が下がってしまったら、また、クラブ活動やボランティア活動をやめてしまったら、受験に不利になるのではないかとというご質問をよく耳にします。

たしかに、中学・高校入試では出願書類として現地校の成績証明書を提出しますし、クラブ活動や課外活動の経験があれば、面接での話題にすることもできます。しかし、帰国生入試は推薦入試とは異なり、学力テストを課す学校では、むしろテストの点数が合否の決め手になるといっても過言ではありません。

現地校の成績は、たしかに生徒の学力の目安となりますが、国や州、地域、また学校によって評価方法も異なりますし、日本の中学や高校とは異なり、生徒によって受講科目もまちまちです。さらに、ESLやELLなどで受講した場合には、レギュラー授業を受講した生徒よりも好成績が出やすいのも実情です。このようなこともあり、現地校の成績は参考程度にとどめられることが多いのです。

しかし、現地校での学習は重要ではないということではありません。中学生や高校生としての知識を得ることができる場ですし、英語力を向上させることは入試科目の一つである英語の得点力アップにもつながります。また、英語力が高いことを英検の合格やTOEFLのスコアで証明できれば、英語のテストが免除されたり、入試科目の負担の軽い特別入試の受験資格が得られたりできます。

もちろん、帰国生入試においては、日本語での学力が問われるところが多いですし、入学後には日本語で学習することになるので、現地校の学習と同時に日本語での学習を継続する必要があります。現地校の学習との両立はたいへんですが、頑張ってくださいね。

執筆者：丹羽 筆人（名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

